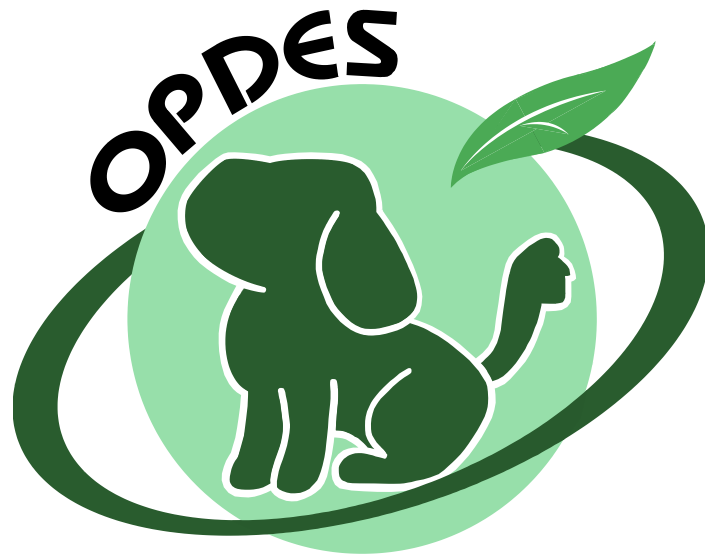


OPDES チームテスト

規定&審査表（登録申請書）



2003年 1月 6日 初版作成
2005年 8月10日 改正
2009年 1月 1日 改正
2012年 1月 1日 改正

OPDES 犬の社会化認定試験（チームテスト）規定

全般的な規約

「チーム」とは飼い主と犬を意味します。

「犬の飼主と一緒に暮らすその犬に義務教育を行うこと」が目的であるこの試験には、OPDESの理念である「命ある全ての犬に教育を」に基づき、血統書のあるなしに関わらず、すべての犬種およびすべての大きさの犬が受験できます。ただし、受験時において犬の年齢が12ヶ月以上であること。狂犬病ワクチンが接種済みであり、有効期限内であること。妊娠中の犬や、病犬、怪我をしている犬は受験できません。発情しているメス犬は受験番号が一番最後になります。

試験はオビディエンステスト（Aセクション）と実社会での犬の態度と行動テスト（Bセクション）の2部門で構成されています。Aセクションは準備された30m×40m以上のグラウンドや芝地で行い、Bセクションは実際に道路や各施設で行われます。Aセクションで35点以上を得なければ、Bセクションは受験できません。

全試験中、あるいは試験会場（駐車場など、その近辺も含む）において、犬の社会化認定試験に参加する者として相応しくない行動（犬の排便をそのままにしておく、犬に対する度を超えた体罰、他の犬に噛み付く等）をハンドラーあるいは受験犬が行ったことを審査員が確認した場合、その犬の試験は中止され、不合格となります。審査員が試験中、続行不能と判断した場合も、その時点で試験は中止されて不合格となります。

犬の各動作は原則として、ハンドラーの声による命令だけで行われなければいけません。ただし、身体的にそのことが困難な方は、手による合図等や、犬を右側においてコントロールしてもかまいません。

各課目は全て審査員の合図で開始します。次に行う課目を忘れて審査員に尋ねることや、課目の内容を指示してくれるように前もって頼むことは問題ありません。1つの課目を終了して、次の課目を始める前に犬をさわって誉めてやることはかまいません。規定に明記されていないことに関しては審査員が判断します。審査終了後は直ちに審査員から講評がなされ、評価に基づく得点と合否が発表されます。

Bセクションは点数による審査ではなく犬の態度と行動により課題ごとに「信頼できる」、または「信頼できない」と評価されます。

合格となるには、Aセクションで35点以上を獲得し、なおかつBセクションで全て「信頼できる」の評価を得たうえ、ハンドラーは講習を受けた後、筆記試験を受け合格点を取得しなければなりません。チームテスト合格の認定は受験した「チーム」に対して与えられます。飼主以外の方が代理で受験することはできません。

試験で不合格となっても、審査員がその犬の飼育法などが間違っていると見なしたわけではありません。一日に受けられるのは、1課目（TT1・TT2）だけです。

チームテストレベル1（TT1）

Aセクション（オビディエンステスト）50点

チームテストレベル2（TT2）

Aセクション（オビディエンステスト）50点

Bセクション実施要領 チームテスト1、2（共通）

Bセクションは実際に道路や各施設で行われることが原則ですが、やむをえずそれが困難な場合はAセクションの会場、ならびにその近辺で行われます。

Bセクションの審査にふさわしく、それを利用できる場合（犬と共にエレベーターに乗れる。犬同伴OKのレストランがある等）は審査員の判断で3つ課題のいずれかを、それに置き換えることができる。Aセクション終了とともに、そのペア（2頭あるいは3頭）ごとにBセクションを行うか、受験犬のAセクション全終了後に全犬を集めて行われるかは、担当審査員によって決定されます。

過去にTTを受験合格した犬でも毎受験時にBセクションは審査されます。

1. 人との会話中に触られたときの犬の態度と行動

名前を呼ばれたチームは審査員のもとまで行って握手をし、自然な感じで審査員と会話をします。このとき犬はリードに繋がれた状態で、ハンドラーの側において、立っていても、座ったりしてもかまいません。審査員が「触ってもいいですか？」と尋ねてから、犬を触ります（頭をなでる程度）。そのときに犬は怯えたり、攻撃的であってははいけません。

2. 人混みや道路を歩行したときの犬の態度と行動

試験会場の状況に応じて、道路や人混み、あるいは他の犬のいるところを審査員の指示通りに歩行します。犬はリードに繋がれた状態で自然に歩いてかまいません。指示通りに歩行した後、審査員のところに戻ってきます。そのときに犬は、人や他の犬に、あるいは車や自転車に怯えたり、攻撃的であってははいけません。

3. 犬が待たされているときに他の人が近寄ってきたときの犬の態度と行動

犬は審査員の指定した場所に繋がれる。あるいは適当な場所がない場合ヘルパーがリードを持ち、ハンドラーは犬に見えない場所に隠れる。見知らぬ人が犬に近づき、犬のすぐ側を通過します。そのときに犬は怯えたり、攻撃的であってははいけません。

OPDESオビディエンス試験

全般規定

- ハンドラーと出場犬はスポーツマンシップの精神で、また愛犬家としてのルールを守って参加すること。
- リードはポケットに入れるか、肩にたすきがけにする。首輪は審査員が認めたものであれば良いが、強く絞めすぎてはいけない。スパイク首輪の装着は認められない。
- 手にはなにも持ってはいけない。防寒目的以外の手袋の装着も禁止されている。
- 試験は全て基本姿勢に始まり、基本姿勢で終了する。各課目の終了時に犬を誉めてもかまわない。
- 命令はどのような言葉でも良いが、一動作に対して短い単一の「声符」だけが許される。手や体を使用した場合は、その度合いにより評価が下げられる。
- 左Uターンは、ハンドラーは必ず左回りで行が、犬は頭を軸に体を180度ひねって、あるいはハンドラーの後ろを回ってのどちらでも良い。
- ハンドラーが犬のもとに戻るとき、犬の右側に直接あるいは犬の後ろを回ってのどちらでもよい。正面に座っている犬を左側に座らせるとき、犬は頭を軸に体を180度ひねって、あるいはハンドラーの後ろを回ってのどちらでも良い。
- 課目と課目の間に移動が必要な場合に犬を自由にしてはいけない。
- 審査は各課目毎に評価が下され、その評価に応じた点数が与えられる。出場者が審査表の閲覧を希望した場合、審査員はそれを拒むことはできない。しかし、審査内容に意義を申し立てる事はできない。
- 審査終了後は直ちに審査員が評価と得点を公表します。審査員の署名がなされた訓練手帳（グリーンブック）の返還により試験終了とします。

試験失格

- 試験中いかなる場面（入退場や申告も含む）でも、ハンドラーのスポーツマンシップに欠ける態度、あるいは審査員が犬の性格に重大な欠点を認めた場合、試験は中止され失格となる。得点は一切与えられない。
- コントロール不能犬、あるいは犬がハンドラーのもとを離れて三度の呼び戻しでハンドラーのもとにあるいは試験会場内に戻ってこない場合も試験は中止され失格となる。

課目の中止

- ハンドラーの三度による命令で、その課目あるいは課目に必要な動作が実行できない場合、その課目は0点となる（試験は続行できる）。
例：三度の「フセ」の命令で犬は伏せない。

● チームテスト 1 度 (TT1) 50 点

* 全課目リード付き

1. リード付きで横に付いて歩く 15 点 要領図参照

リード付きの犬を伴った 2 チームが審査員の前に進み出て申告をします。

受験番号の若いチームが出発点で基本姿勢（ハンドラーは進行方向に立ち、犬は真横で真っ直ぐに座る）で立ちます。

審査員の合図で要領図の様に歩きだします。

（命令は出発時、停止後、歩度の変更時だけ許される。コーナーや左 U ターンなどでは使用できない。群衆は 8 の字で行進する。）

2. 座って待つ 10 点

出発点でハンドラーと犬は基本姿勢で立ちます。

審査員の合図で犬に「マテ」の指示を出し、ハンドラーは振り返ることなく常歩で 30 歩進んで立ち止まり犬と対面します。審査員の合図で犬のもとへ戻り、犬の右側に立ちます。

3. 伏せー呼び寄せ 15 点

出発点でハンドラーと犬は基本姿勢で立つ。審査員の合図で犬に「フセ」を命令し、リードは犬の横に静かに置きます。（希望すれば「フセ」を命令する前にリードを外しても良い）。ハンドラーは振り返ることなく常歩で 30 歩進んで立ち止まり犬と対面します。

審査員の合図で犬を呼び、ハンドラーの正面に座らせます。一呼吸おいてから犬を左側に座らせて基本姿勢をとり、この課目を終了します。（犬を、ハンドラーの正面に座らせないで、直接脚側に座らせても構いません。）

4. 伏せて待つ 10 点

ペアのチームが課目 1～3 を行っている間、指定された場所で犬は伏せの姿勢で待ってなければなりません。審査員に申告をした後、受験番号の若いチームが出発地点に、そして受験番号の後のチームが指定された場所へと行きます。

ハンドラーと犬はハンドラーが離れる方向に向かって基本姿勢をとる。

審査員の合図で犬に「フセ」を命じてリードは犬の横に静かに置く。

ハンドラーは振り返ることなく、10 歩進んで犬に肩を向けて立ち止まります。

審査員が犬のもとに行くように合図したら犬のもとへ行き、伏せている犬の右側に立ち、審査員の合図で犬を座らせます。

（ハンドラーは犬を見てもかまわないが、指示を与えた場合は減点される）

ペアのチームが課目 1. 「リード付きで横に付いて歩く」を終える前に 3 m 以上移動した場合、得点は 0 点となります。

● チームテスト 2 度 (TT2) 50 点

* リードは最初に行う課目の前に外す。全課目終了後に装着する。

1. リードなしで横に付いて歩く 15 点 要領図参照

リード付きの犬を伴った 2 チームが審査員の前に進み出て申告をします。

受験番号の若いチームが出発点でリードを外して基本姿勢（ハンドラーは進行方向に立ち、犬は真横で真っ直ぐに座る）で立ちます。審査員の合図で要領図の通りに歩きだします。

（命令は出発時、停止後、歩度の変更時だけ許される。コーナーや左 U ターンなどでは使用できない。群衆は 8 の字で行進する。）

2. 常歩中の座れ 10 点

出発点での基本姿勢から、審査員の合図でハンドラーと犬は常歩で歩きだします。

10～15 歩の間で「スワレ」の命令で犬を座らせませす。ハンドラーは、「スワレ」の命令をする時に、歩き続けていても、立ち止まってもかまいません。ハンドラーは振り返ることなくそのまま 30 歩進んで立ち止まり犬と対面します。審査員の合図で犬のもとへ戻り、犬の右側に立ちます。

3. 常歩中の伏せー呼び寄せ 15 点

この課目は出発点に戻ることなく（会場が狭い場合は戻っても良い）、常歩中の座れを終えた地点での基本姿勢から始まります。審査員の合図でハンドラーと犬は常歩で歩く。10～15 歩の間で「フセ」の命令で犬を伏せさせませす。ハンドラーは、「フセ」の命令をする時に、歩き続けていても、立ち止まってもかまいません。ハンドラーは振り返ることなく常歩で 30 歩進んで立ち止まり犬と対面します。審査員の合図で犬を呼び、ハンドラーの正面に座らせませす。一呼吸おいてから犬を左側に座らせて基本姿勢をとり、この課目を終了します。（犬を、ハンドラーの正面に座らせないで、直接脚側に座らせても構いません。）

4. 伏せて待つ 10 点

ペアのチームが課目 1～3 を行っている間、指定された場所で犬は伏せの姿勢で待っていないければなりません。審査員に申告をした後、受験番号の若いチームが出発地点に、そして受験番号の後のチームが指定された場所へと行きます。

ハンドラーと犬はハンドラーが離れる方向に向かって基本姿勢をとり、リードを外す。

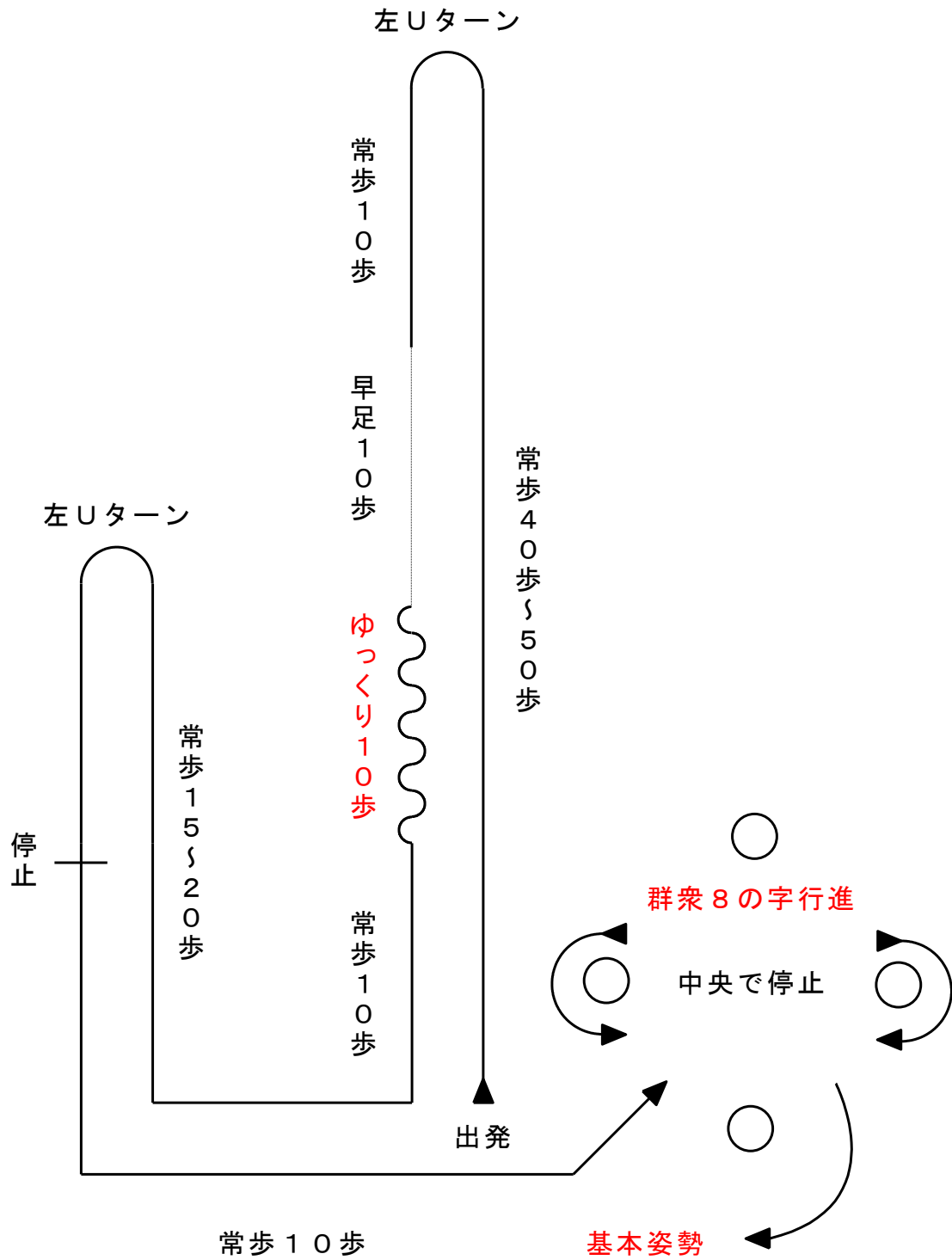
審査員の合図で犬に「フセ」を命じてハンドラーは振り返ることなく、20 歩進んで犬に肩を向けて立ち止まります。

審査員が犬のもとに行くように合図したら犬のもとへ行き、伏せている犬の右側に立ち、審査員の合図で犬を座らせませす。

（ハンドラーは犬を見てもかまわないが、指示を与えた場合は減点される）

ペアのチームが課目 2. 「常歩中の座れ」を終える前に 3m 以上移動した場合、得点は 0 点となります。

脚側行進要領図 (チームテスト1, 2 共通)



開催日： 年 月 日 主催：

受験クラスに○印をつけて下さい TT1 (初回・更新) / TT2 (初回・更新) / TT2 永久 / 3回目 / 4回目 / ゴールド 申込犬の最新合格日 TT1/TT2 年 月 日 受験者名 過去に筆記テストを受験して 合格した / 合格したことがない (受験したことがない)							
指導手		会員番号		未入会			
住所・TEL 〒							
犬名			生年月日				
犬種		性別	牡・牝	外ウ or チップ			
セクションA				配点	評価	得点	短評
1. TT1 紐付きで横について歩く / TT2 紐なしで横について歩く				15			
2. TT1 座って待つ / TT2 常歩中の座れ				10			
3. TT1 伏せ-呼び寄せ / TT2 常歩中の伏せ-呼び寄せ				15			
4. TT1 伏せて待つ / TT2 伏せて待つ				10			
合 計				50			
セクションB							
1. 人との会話中その人に触れられたときの態度と行動				信頼できる / 信頼できない			
2. 人混みや道路を歩行したときの犬の態度と行動				信頼できる / 信頼できない			
3. 犬が待たされているときに他の人が近寄ってきたときの犬の態度と行動				信頼できる / 信頼できない			
総 合				信頼できる / 信頼できない			
合格はAセクションで35点以上で、なおかつBセクションが全て信頼できる場合のみ。 さらに指導手が筆記試験において合格となる点数を取得していること。							
合格 / 不合格 (筆記試験 点) 審査員署名							